

『やさいの花』

ふしぎいっぱい写真絵本

埴 沙萌・写真 嶋田泰子・文 ポプラ社



小さな畑を借りて、野菜を作っています。ちょっと遠いところにあるので（言い訳です・・・）、雨天が続いたりする

と、ギョッとするほど成長してしまった野菜に驚きます。ブロッコリーの花を咲かせてしまったり、ギュギュっつと伸びたレタスを見たり・・・ 野菜売り場にならんでいる野菜たちが、農家の方たちの作る、いかに美しい「作品」なのかがよくわかり、感心してしまいます。

（ずばらな私は、野菜の花を見ることがありますが）人間は、花が咲く前に食べて

しまうものが多いので、なかなか「やさいの花」を見ることがないということです。そんな花を埴さんが、撮りあつめた本です。

この本を手にした時、「埴さんの写真だ」と思って開いたのですが、ちょっと「ん？」という物足りなさを感じてしまいました。あの胞子がふんわりと舞う美しいきのこの写真と比べると何かが足りないような感じがしました。他にもそう感じる方もいて、「どうしたんでしょうね、被写体のせいかな。」と話していました。

ホームページを見ると2月にお亡くなりになったとのこと。残念です。お別れの文には、閻魔さんから針の山のようなシャボテン公園を作って欲しいとの依頼もきたとのことです。ご冥福をお祈りいたします。

（遠藤）